

Mac OS 用 Web 版付録 3 R コマンダーの起動と終了

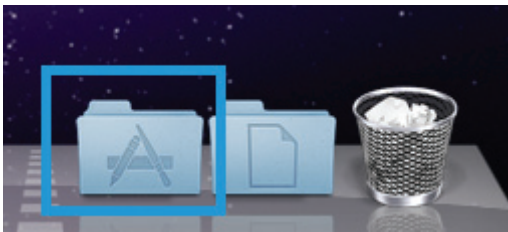
<Mac OS 専用>

本書で使用する R コマンダーの起動方法と終了方法を説明します。R コマンダーは R というソフトウェアのオプション・パッケージなので、R の起動と終了の作業が伴います。

R コマンダーの起動方法

1. 操作説明図 M3-1 のデスクトップ上にある“アプリケーション”のフォルダをクリックして開きます。すると、操作説明図 M3-2 のように、“R64”というアプリケーション起動用アイコンが見つかります。これは、Mac OS 用 Web 版付録 1 でインストールした 64 ビット版の R です。“R64”のアイコンをダブルクリックして R を起動します。

操作説明図 M3-1



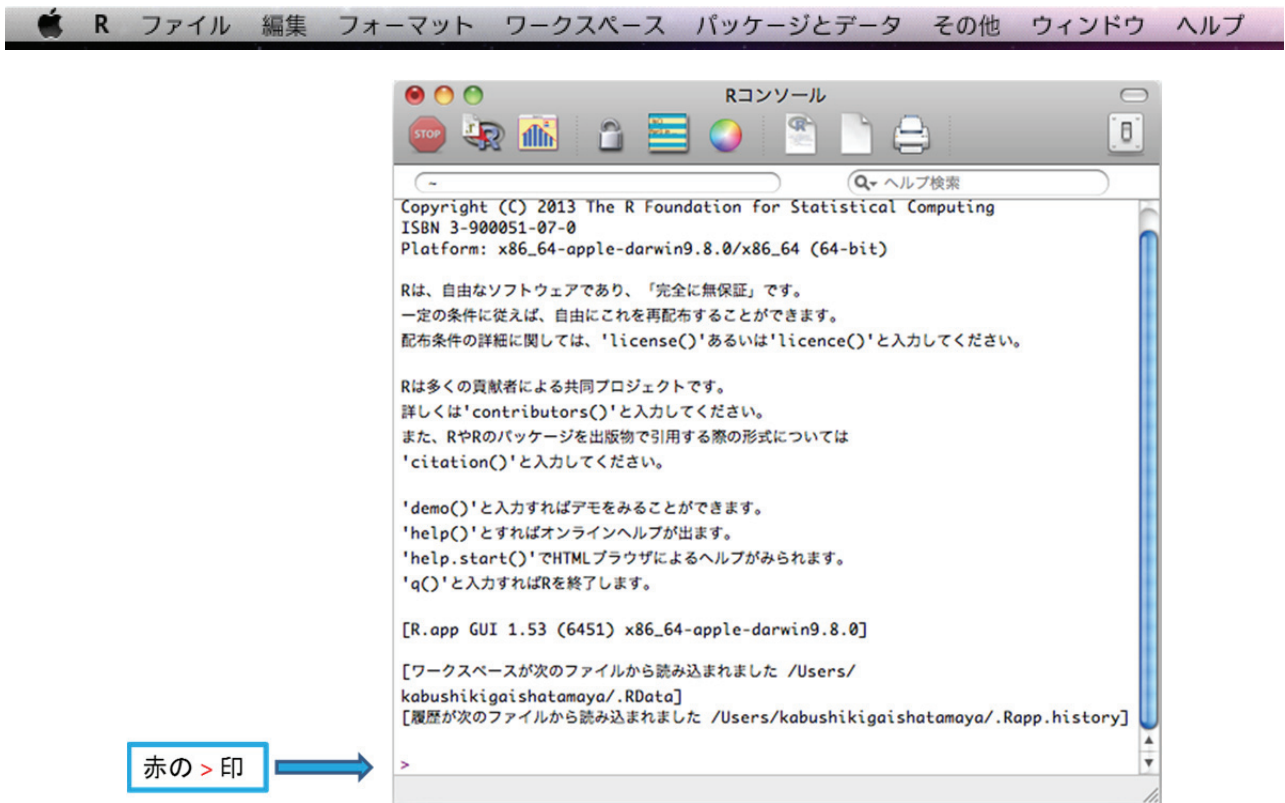
操作説明図 M3-2



【注意】“R64”と同じ形の“R”というアイコンもありますが、必ず“R64”の方をダブルクリックしてください。Mac OS X 10.6 Snow Leopard よりも前のバージョンの Mac OS では、“R”のアイコンだけで、“R64”のアイコンがありません。その場合は、“R”のアイコンをダブルクリックしてください。

2. R が起動すると、操作説明図 M3-3 の下側のウィンドウが開きます。これを、“R コンソール”ウィンドウとよびます。また、“R コンソール”ウィンドウの適切な箇所をクリックしてアクティブ・ウィンドウにすると、デスクトップ上部の表示が操作説明図 M3-3 の上ようになります。これを“R のメニュー・バー”とよびます。

操作説明図 M3-3

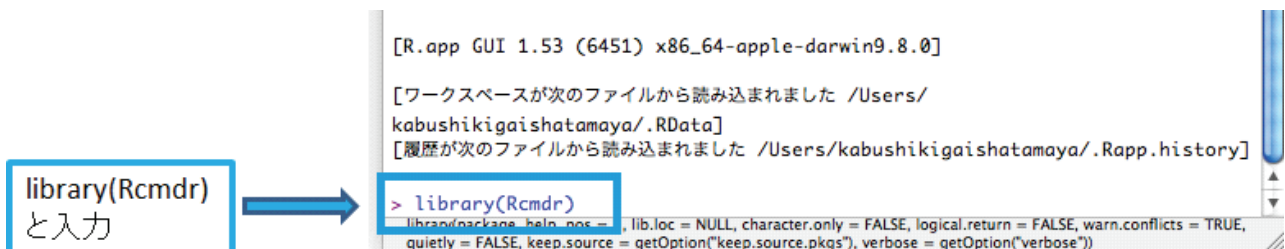


3. “R コンソール” ウィンドウをアクティブ・ウィンドウにすると、ウィンドウの末尾に > という印が赤で表示されていることがわかります。この印の隣にマウスをあわせてクリックし、文字が入力できるようにします。半角英字で

library(Rcmdr)

とキーボードで入力し、Return キーを押してください（操作説明図 M3-4 参照）。R コマンドが起動して、操作説明図 M3-5 のウィンドウが開きます。

操作説明図 M3-4



操作説明図 M3-5



【参考】R コマンダーの起動で“library(Rcmdr)”とキーボード入力をするのは最初の1回だけです。次の終了方法の説明にしたがってR コマンダーを終了すれば、2回目からは矢印キーだけで操作が済みます。

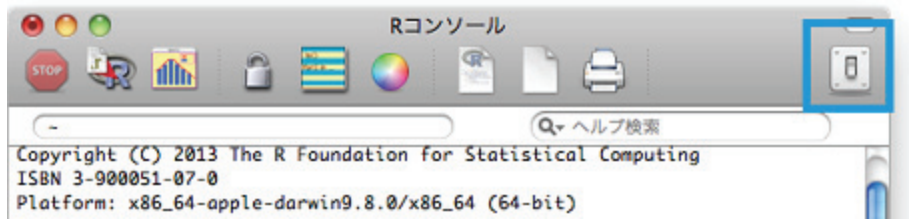
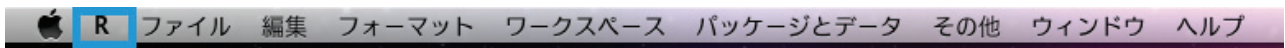
R コマンダーの終了方法は、次の通りです。

R コマンダーの終了方法

R コマンダーを終了するときは、その土台になっている R というソフトウェアと同時に終了させるのが便利です。以下、その方法を説明します。

1. R コマンダーのウィンドウをよけて“R コンソール”ウィンドウが見える位置に出し、適当な箇所をクリックしてアクティブ・ウィンドウにします。
2. 操作説明図 M3-6 のような表示になります。終了の方法は、次の2通りあります。
 - (i) “R コンソール”ウィンドウの右上にある電気のスイッチのマークをクリックします。
 - (ii) メニュー・バー上でりんごマークの隣にある「R」をクリックします。操作説明図 M3-7 の選択肢が表示されるので、一番下の「Rを終了」をクリックしてください。

操作説明図 M3-6



操作説明図 M3-7



3. 操作説明図 M3-8 の“Rセッションを終了”というウィンドウが開き、

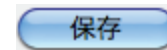
ワークスペースのイメージファイルを保存しますか？

とたずねてきます。必ず **保存** をクリックしてください。すると、R コマンドーと R の両方のウィンドウが閉じて終了します。

操作説明図 M3-8



【重要な注意】R と R コマンドーを終了するときは、操作説明図 M3-8 のウィンドウで、これからも必ず



をクリックしてください。入力履歴を保存する意味で、これはとても重要なことです。

操作説明図 M3-8 のウィンドウで **保存** を選んで終了すると、学習中に R コマンドーへ取り込んだデータや入力内容が、R や R コマンドーの中に保存された状態で終了します。したがって、例えば 3 日後に学習を再開しようとして R コマンドーを起動したとき、3 日前に取り込んだデータや入力した内容がすぐに再利用できます。

操作説明図 M3-8 のウィンドウでもしも **保存しない** を選んでしまうと、その日の学習中に R コマンドーへ取り込んだデータや入力した内容が保存されずに終了します。そのため、後日学習を再開するときに、データの取り込み作業を改めて行うことになります。これはとても面倒なことです。操作説明図 M3-8 のウィンドウでは、必ず **保存** をクリックしましょう。

R コマンドを終了するときには操作説明図 M3-8 のウィンドウで **保存** をクリックしておくこと、R コマンドの再起動も簡単になります。

R コマンドの再起動方法

1. デスクトップ上の“アプリケーション”フォルダをクリックし、表示されたアプリケーション一覧から“R64”のアイコンをダブルクリックしてRを起動します。“R コンソール”ウィンドウが開きます。
2. “R コンソール”ウィンドウの適当な場所を選んでクリックし、アクティブ・ウィンドウにします。
3. 上向き矢印キー **↑** を押すと、これまでに入力した内容が順次さかのぼって“R コンソール”ウィンドウ上に再表示されます。前回の起動で使用した

`library(Rcmdr)`

を操作説明図 M3-9 のように再表示させて、**Return** キーを押します。R コマンドが再起動します。このようにして、キーボード入力をしなくて起動をすることができます。

操作説明図 M3-9

